

## 令和6年度一般県民における自転車損害賠償責任保険等への加入に関するアンケート調査結果【結果分析】

この資料3は、令和6年度一般県民における自転車損害賠償責任保険等への加入(資料2)の内容を分析したものです。

### 結果分析

#### 1 自転車損害賠償責任保険等加入義務化の認知度による加入率の比較(自転車利用者)

アンケート【問5】：自転車損害賠償責任保険等加入義務化を知っている、知らない

アンケート【問9】：自転車損害賠償責任保険等に加入している、加入していない、わからない

	加入している		加入していない		わからない		合計数	合計%
全体	154	43.9%	123	35.0%	74	21.1%	351	100%
1 義務化を知っている	141	57.8%	70	28.7%	33	13.5%	244	70%
2 義務化を知らない	13	12.1%	53	49.5%	41	38.3%	107	30%

#### 1の分析結果

「義務化を知っている」者の加入率が57.8%であるのに対し、  
「義務化を知らない」者の加入率が12.1%であった。  
義務化を知っている者の加入率が高く、45.7%の差がある結果となった。

⇒ 保険加入率の向上には自転車条例及び保険等加入義務化の更なる周知が必要。

#### 2 年齢別による自転車損害賠償責任保険等加入義務化の認知度の比較(自転車利用者)

アンケート【問2】：年代、20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上

アンケート【問5】：自転車損害賠償責任保険等加入義務化を知っている、知らない

	知っている		知らない		合計数	合計%
全体	244	69.5%	107	30.5%	351	100%
1 20歳未満	3	100.0%	0	0.0%	3	1%
2 20歳代	46	47.9%	50	52.1%	96	27%
3 30歳代	30	76.9%	9	23.1%	39	11%
4 40歳代	49	73.1%	18	26.9%	67	19%
5 50歳代	52	85.2%	9	14.8%	61	17%
6 60歳代	44	74.6%	15	25.4%	59	17%
7 70歳代以上	20	76.9%	6	23.1%	26	7%

#### 2の分析結果

最も高いのが「20歳未満」は人数が少ないため、対象外とし、  
最も低いのが「20歳代」で47.9%であった。(20代は学生と会社員が多い)

⇒ 特に若年層に対する告知啓発が必要。

### 3 年齢別による自転車損害賠償責任保険等加入率の比較(自転車利用者)

アンケート【問2】：年代、20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上

アンケート【問9】：自転車損害賠償責任保険等に加入している、加入していない、わからない

	加入している		加入していない		わからない		合計数	合計%
全体	154	43.9%	123	35.0%	74	21.1%	351	100%
1 20歳未満	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	3	1%
2 20歳代	31	32.3%	26	27.1%	39	40.6%	96	27%
3 30歳代	21	53.8%	15	38.5%	3	7.7%	39	11%
4 40歳代	28	41.8%	28	41.8%	11	16.4%	67	19%
5 50歳代	36	59.0%	20	32.8%	5	8.2%	61	17%
6 60歳代	24	40.7%	23	39.0%	12	20.3%	59	17%
7 70歳代以上	13	50.0%	10	38.5%	3	11.5%	26	7%

#### 3の分析結果

最も高いのが「50歳代」の59.0%であり、  
最も低いのが「20歳代」の32.3%であった。

⇒ 特に若年層に対する意識改革と普及啓発が必要。

### 4 利用頻度による自転車損害賠償責任保険等加入率の比較(自転車利用者)

アンケート【問7】：どのくらいの頻度で使用、ほぼ毎日、週に数回、月に数回、年に数回、

アンケート【問9】：自転車損害賠償責任保険等に加入している、加入していない、わからない

	加入している		加入していない		わからない		合計数	合計%
全体	154	43.9%	123	35.0%	74	21.1%	351	100%
1 ほぼ毎日	38	65.5%	8	13.8%	12	20.7%	58	17%
2 週に数回	19	42.2%	13	28.9%	13	28.9%	45	13%
3 月に数回	41	52.6%	26	33.3%	11	14.1%	78	22%
4 年に数回	56	32.9%	76	44.7%	38	22.4%	170	48%

#### 4の分析結果

最も高いのが「ほぼ毎日」の65.5%であり、  
最も低いのが「年に数回」の32.9%であった。  
全体として利用頻度が低いほど加入率が下がる傾向にある。

⇒ 自転車利用には、高額賠償のリスクがあることの更なる周知が重要。